

寝太郎堰碑と寝太郎堰改修記念碑

東日本建設業保証株式会社
建設産業図書館
Tomohide Eguchi
江口知秀

J R厚狭駅前から歩いて数分の厚狭公民館には、「寝太郎堰碑」とだけ書かれた石碑がある。これは昭和三十四年の洪水で大破した旧寝太郎堰に使われていた石を記念に残したものだという。

旧寝太郎堰は、「古典的な土木工法の集大成」だったと、『山陽町史』には書かれている。土と木と石で造られた文字通りの土木構造物で、堰の骨組みを松丸太のマス組みで造り、そこに河石を詰め込んで、上から畳石で押さえた単純な構造でありながら、腐りにくい松丸太を使ったこと、無数のマス組みで骨組みをパーツ化し、破損時の修理を容易にしたこと、長くゆるい勾配の堰にすることで、十分な取水効果を実現したことなど、随所に建設者の英知が見られたという。明治十年代に造られた可能性が高いのではないかと考えられていたが、大洪水で流されてしまった今では、旧堰についての多くは謎のままとなった。旧堰以前については言うまでもなく、人々の命を繋いできた大事な構造物の史料がならに残されていないのは、大変残念なことだと思う。

タクシーを拾うために駅前へもどり、厚狭川を三キロメートルほどさかのぼった寝太郎堰へとむかうことにした。駅前を離れると、車窓からは赤い石州瓦を葺いた家屋が見られ、その軒下の細い水路を寝太郎堰か

ら取水した用水が流れていた。

水路を辿るようにして到着した寝太郎堰は、水門と魚道を備えた堰長八二・五メートル、堰高三メートルのコンクリート堰であり、旧堰の崩壊後、昭和三十八年に完成した。周辺はのどかな里山風景で、右岸に切られた取水口の側には小さな畑があり、その脇に自然石を無造作に立てたような寝太郎堰の改修記念碑があった。碑文を読むと、この石碑は公民館にあった碑と同じで旧寝太郎堰に使われていたものらしい。読み進めようとしたが、解読できない文字があったので、地元の図書館で調べることにした。

駅から近い厚狭図書館で資料探しに難儀していると、図書館職員の方々が地元の歴史に詳しい山陽小野田市立中央図書館の館長に電話で相談してくれた。すると車で三〇分もかかるところを駆けつけてくれることとなった。いらした館長は早魃記念碑（九月号参照）を発見した開初茂夫氏で、今年の四月に厚狭図書館から中央図書館へ異動したばかりだという。『かいはつ』という苗字が気になったので由来を訪ねると、期待ははずれて氏のご先祖は他所から厚狭へ移ってこられたのだという。「もともと厚狭の人間なら、おれの先祖が寝太郎じゃ」と冗談をまじえながら、いろいろとご教授いただいたうえ、改修

記念碑の碑文については、開初氏が解読して後日教えてくださることとなった。

ご厚意に感謝して図書館を後にした道すがら、とどこころに「寝太郎まつり」のポスターが貼られていた。祭りでは寝太郎音頭や各種イベントが催される。この日ばかりは静かな町が賑わうのだという。はるか昔の放浪の果てに、この地に腰を据えた寝太郎様は、今でも厚狭の人々とともに生きていた。



寝太郎堰改修記念碑

[交通]JR厚狭駅前からタクシーで10分ほど。
徒歩なら1時間弱。

※碑文の全文は日建連HPに掲載しています。